

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	熊本デザイン専門学校
設置者名	学校法人未来創造学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養課程	グラフィックデザイン科	夜・通信	315	160	
	メディア映像デザイン科	夜・通信	375	160	
	ファッションデザイン科	夜・通信	228	160	
工業専門課程	建築・インテリアデザイン科	夜・通信	195	160	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html">https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	熊本デザイン専門学校
設置者名	学校法人未来創造学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	学校法人未来創造学園 元校長	令和4年6月1日 ～令和7年5月31 日	学内コンプライア ンス
非常勤	学校法人壺溪塾学園 理事長	令和4年6月1日 ～令和7年5月31 日	外部監査
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	熊本デザイン専門学校
設置者名	学校法人未来創造学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)                  全学科において前期終了後(8月)に行われる各学科ごとの教育課程編成委員会、及び年1回(5月)行われる学校関係者評価委員会で、各委員から出された意見に基づき、各学科において授業内容・計画の検討・見直しを行い授業計画を作成し、年度末(2月)に行われる2回目の教育課程編成委員会において報告し承認を受けている。また、承認後、学校ホームページにおいてシラバスを公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)                  全学科において各学期毎に講義科目については定期試験、演習科目については課題提出・プレゼンテーション等により学生の学修成果を評価している。また、各学期末には教職員による成績審査会を行い、すべての学生の成績、学修意欲等について厳格に審査し、必要に応じて適切な対処が取れる体制を整えている。                  卒業認定においては、卒業制作もしくは卒業研究の合格を必須要件としており、制作物やプレゼンテーションを複数の教職員で査定し、学修成果の把握に努めている。                  最終的な履修の認定は各学年末に行われる会議(1年次:進級判定会議、2年次:卒業判定会議)において行われる。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)                  本校は時間制であるため、全学科においてGPAの算出は以下の算出法とする。                  各科目の評価を、令和6年度においては                  S(秀)=4.0 A(優)=3.0 B(良)=2.0 C(可)=1.0 D(不可)=0                  と点数化した上で  <math display="block">GPA = (\text{科目評価点数} \times \text{科目授業時間数}) \text{の合計} / \text{総授業時間数}</math>                 により算出するものとする。                  なお、GPA算出は年2回(前期終了時、後期終了時に行う)行い、各年度の学校基本調査の学生数を基準に算出する。                  留年等により再履修する場合は、再履修によって得た評価に置き換えられる。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html">https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html</a>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- ・本校教育理念・目標に基づき、学科ごとに定める所定の授業科目を履修し、合格すること。
- ・各学科が求める専門技術者としての能力及び表現力を修得していること。
- ・デザイン領域における幅広い知識と、課題解決に積極的に取り組む姿勢を身につけていること。
- ・社会人として必要な倫理観や道德観を身につけ、広く社会に貢献できる人材であること。

その他の卒業要件

- ・卒業制作又は卒業研究に合格すること。
- ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

[https://www.kumamoto-  
design.ac.jp/school/publishing.html](https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html)

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	熊本デザイン専門学校
設置者名	学校法人未来創造学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html">https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html">https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html</a>
財産目録	<a href="https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html">https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html</a>
事業報告書	<a href="https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html">https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html">https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化教養		専門課程	グラフィックデザイン科		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920 単位時間/単位	165 単位時間 /単位	1755 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1920 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
140人		128人	0人	5人	18人	23人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
学科において前期終了後及び年度末の2回行われる学科ごとの教育課程編成委員会、及び年1回行われる学校関係者評価委員会により、各委員から出された意見に基づき、学科において授業内容・計画の検討・見直しを行い授業計画を作成し、年度末の教育課程編成委員会において報告し承認を受けている。
成績評価の基準・方法
学科において各学期毎に講義科目については定期試験、演習科目については課題提出・プレゼンテーション等により学生の学修成果を評価している。また、各学期末には教職員による成績審査会を行い、すべての学生の成績、学修意欲等について厳格に審査し、必要に応じて適切な対処が取れる体制を整えている。
卒業・進級の認定基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校教育理念・目標に基づき、学科で定める所定の授業科目を履修し合格すること。</li> <li>・学科が求める専門技術者としての能力及び表現力を修得していること。</li> <li>・デザイン領域における幅広い知識と、課題解決に積極的に取り組む姿勢を身につけていること。</li> <li>・社会人として必要な倫理観や道徳観を身につけ、広く社会に貢献できる人材であること。</li> </ul>

その他の卒業要件
<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業制作又は卒業研究に合格すること。</li> <li>当該年次の授業料等諸経費が完納されていること。</li> </ul>
学修支援等
<p>(1クラスに2名の教員(担任・副担任)を配置し、協働して日常的な質問や相談にあたるなど学生の学修意欲向上に努めている。また、各期末には必要に応じ補習授業等を行い、科目理解度を高める取り組みを行っている。学校独自奨学金・成績優秀者表彰を実施している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
59人 (100%)	0人 (0%)	54人 (92%)	5人 (8%)
(主な就職、業界等)			
<p>広告代理店制作部、グラフィックデザイン制作事務所、印刷会社制作部署、Web制作会社、一般企業企画制作部署、新聞社制作部など広告業界に就職。</p>			
(就職指導内容)			
<p>クラスに2名の教員(担任・副担任)を配置しキャリア支援室と共に個別指導を中心に就職のあっせんを実施。ビジネスマナー等の授業を必修科目として履修させ社会人として必要なビジネススキルを提供。</p>			
(主な学修成果(資格・検定等))			
<p>卒業時に文化教養課程専門士の称号を付与。レタリング検定、色彩検定 取得を目指す。</p>			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
139人	15人	10%
(中途退学の主な理由)		
<p>経済的理由、進路変更、家事都合等</p>		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<p>個人面談(クラス担任等)、保護者との協力(保護者説明会、保護者面談)、入学時オリエンテーション、コンペ・イベント等の充実等を実施している。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養	専門課程	メディア映像デザイン科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920 単位時間/単位	180 単位時間 /単位	1740 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
		1920 単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
50人	47人	0人	4人	11人	15人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
学科において前期終了後及び年度末の2回行われる学科ごとの教育課程編成委員会、及び年1回行われる学校関係者評価委員会により、各委員から出された意見に基づき、学科において授業内容・計画の検討・見直しを行い授業計画を作成し、年度末の教育課程編成委員会において報告し承認を受けている。
成績評価の基準・方法
学科において各学期毎に講義科目については定期試験、演習科目については課題提出・プレゼンテーション等により学生の学修成果を評価している。また、各学期末には教職員による成績審査会を行い、すべての学生の成績、学修意欲等について厳格に審査し、必要に応じて適切な対処が取れる体制を整えている。
卒業・進級の認定基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校教育理念・目標に基づき、学科で定める所定の授業科目を履修し合格すること。</li> <li>・学科が求める専門技術者としての能力及び表現力を修得していること。</li> <li>・デザイン領域における幅広い知識と、課題解決に積極的に取り組む姿勢を身につけていること。</li> <li>・社会人として必要な倫理観や道德観を身につけ、広く社会に貢献できる人材であること。</li> </ul> その他の卒業要件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業制作又は卒業研究に合格すること。</li> <li>・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること。</li> </ul>
学修支援等
1クラスに2名の教員（担任・副担任）を配置し、協働して日常的な質問や相談にあたるなど学生の学修意欲向上に努めている。また、各期末には必要に応じ補習授業等を行い、科目理解度を高める取り組みを行っている。学校独自奨学金・成績優秀者表彰を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	16人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 映像制作会社、番組制作会社、Web制作会社、CG制作会社、広告代理店等			
（就職指導内容） クラスに2名の教員（担任・副担任）を配置しキャリア支援室と共に個別指導を中心に就職のあっせんを実施。ビジネスマナー等の授業を必修科目として履修させ社会人として必要なビジネススキルを提供。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 卒業時に文化教養課程メディア映像デザイン分野専門士の称号を付与 情報検定、色彩検定、CGクリエイター検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44人	2人	4.5%

(中途退学の主な理由) 進路変更、経済的理由
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談(クラス担任等)、保護者との協力(保護者説明会、保護者面談)、入学時オリエンテーション、コンペ・イベント等の充実等を実施している。

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化教養		専門課程	ファッションデザイン科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920 単位時間/単位	363 単位時間 /単位	1557 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1920 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		26人	0人	5人	6人	11人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
学科において前期終了後及び年度末の2回行われる学科ごとの教育課程編成委員会、及び年1回行われる学校関係者評価委員会により、各委員から出された意見に基づき、学科において授業内容・計画の検討・見直しを行い授業計画を作成し、年度末の教育課程編成委員会において報告し承認を受けている。
成績評価の基準・方法
学科において各学期毎に講義科目については定期試験、演習科目については課題提出・プレゼンテーション等により学生の学修成果を評価している。また、各学期末には教職員による成績審査会を行い、すべての学生の成績、学修意欲等について厳格に審査し、必要に応じて適切な対処が取れる体制を整えている。
卒業・進級の認定基準
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校教育理念・目標に基づき、学科で定める所定の授業科目を履修し合格すること。</li> <li>・学科が求める専門技術者としての能力及び表現力を修得していること。</li> <li>・デザイン領域における幅広い知識と、課題解決に積極的に取り組む姿勢を身につけていること。</li> <li>・社会人として必要な倫理観や道德観を身につけ、広く社会に貢献できる人材であること。</li> </ul> その他の卒業要件 <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業制作又は卒業研究に合格すること。</li> <li>・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること。</li> </ul>
学修支援等
1クラスに2名の教員(担任・副担任)を配置し、協働して日常的な質問や相談にあたるなど学生の学修意欲向上に努めている。また、各期末には必要に応じ補習授業等を行い、科目理解度を高める取り組みを行っている。学校独自奨学金・成績優秀者表彰を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	2人 (100%)	0人 (0%)



(主な就職、業界等) アパレルメーカー、アパレル生産企業、小売企業などアパレル業界に就職
(就職指導内容) クラスに2名の教員(担任・副担任)を配置しキャリア支援室と共に個別指導を中心に就職のあっせんを実施。ビジネスマナー等の授業を必修科目として履修させ社会人として必要なビジネススキルを提供。
(主な学修成果(資格・検定等)) 卒業時に文化教養課程ファッションデザイン分野専門士の称号を付与 ファッションビジネス能力検定、色彩検定、パターンメイキング検定の取得を目指す。
(備考)(任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	4人	21%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個人面談(クラス担任等)、保護者との協力(保護者説明会、保護者面談)、入学時オリエンテーション、コンペ・イベント等の充実等を実施している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	建築・インテリアデザイン科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920 単位時間/単位	585 単位時間 /単位	1335 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
		1920 単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	70人	0人	4人	9人	13人		

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画) 学科において前期終了後及び年度末の2回行われる学科ごとの教育課程編成委員会、及び年1回行われる学校関係者評価委員会により、各委員から出された意見に基づき、学科において授業内容・計画の検討・見直しを行い授業計画を作成し、年度末の教育課程編成委員会において報告し承認を受けている。
成績評価の基準・方法 学科において各学期毎に講義科目については定期試験、演習科目については課題提出・プレゼンテーション等により学生の学修成果を評価している。また、各学期末には教職員による成績審査会を行い、すべての学生の成績、学修意欲等について厳格に審査し、必要に応じて適切な対処が取れる体制を整えている。
卒業・進級の認定基準 ・本校教育理念・目標に基づき、学科で定める所定の授業科目を履修し合格すること。 ・学科が求める専門技術者としての能力及び表現力を修得していること。 ・デザイン領域における幅広い知識と、課題解決に積極的に取り組む姿勢を身につけていること。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として必要な倫理観や道德観を身につけ、広く社会に貢献できる人材であること。</li> </ul> <p>その他の卒業要件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業制作又は卒業研究に合格すること。</li> <li>・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること。</li> </ul>
学修支援等
1クラスに2名の教員（担任・副担任）を配置し、協働して日常的な質問や相談にあたるなど学生の学修意欲向上に努めている。また、各期末には必要に応じ補習授業等を行い、科目理解度を高める取り組みを行っている。学校独自奨学金・成績優秀者表彰を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25人 (100%)	0人 (0%)	24人 (96%)	1人 (4%)
（主な就職、業界等） 建築設計事務所、工務店、ハウスメーカー、家具・インテリア雑貨販売店等			
（就職指導内容） クラスに2名の教員（担任・副担任）を配置しキャリア支援室と共に個別指導を中心に就職のあっせんを実施。ビジネスマナー等の授業を必修科目として履修させ社会人として必要なビジネススキルを提供。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 卒業時に工業専門課程専門士の称号を付与。 1, 2級建築士、インテリアコーディネーター、色彩検定、福祉住環境コーディネーター			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
65人	4人	6.1%
（中途退学の主な理由） 進路変更、経済的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 個人面談（クラス担任等）、保護者との協力（保護者説明会、保護者面談）、入学時オリエンテーション、コンペ・イベント等の充実等を実施している。		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
グラフィックデザイン科	120,000円	820,000円	約390,000円	令和7年4月1日より適用
メディア映像デザイン科	120,000円	820,000円	約320,000円	
ファッションデザイン科	120,000円	780,000円	約350,000円	
建築・インテリアデザイン科	120,000円	820,000円	約370,000円	

修学支援（任意記載事項）

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html">https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html</a>		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
学校関係者評価は教職員で実施した自己評価の評価項目（主に学校運営・教育活動・学修成果等）について、本校に設置されている4学科に関連する企業等委員・高等学校関係者委員・保護者委員・卒業生委員からなる学校関係者（定数7名）それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。学校は、評価結果を踏まえた改善方策をたて、随時改善に向けて実施していくものとする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
総合企画株式会社	令和5年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員
くまもとデザイン協議会	令和5年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員
株式会社放送技研	令和5年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員
一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和5年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員
有限会社有田	令和5年4月1日～令和7年3月31日	企業等委員
保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日	保護者委員
熊本デザイン専門学校同窓会	令和5年4月1日～令和7年3月31日	卒業生委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html">https://www.kumamoto-design.ac.jp/school/publishing.html</a>		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.kumamoto-design.ac.jp/">https://www.kumamoto-design.ac.jp/</a>
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H143310000326
学校名 (〇〇大学 等)	熊本デザイン専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人未来創造学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		63人	59人	63人
内 訳	第Ⅰ区分	37人	34人	
	第Ⅱ区分	16人	19人	
	第Ⅲ区分	—	—	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				64人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	—
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	—
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	—
(備考)					

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	—	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。